こぶし園モデルについて

これからの介護に向けて ~地域での実践と首都圏での課題~

130629 虎ノ門フォーラム 第1回実践交流会にて 髙橋紘士

国際医療福祉大学大学院教授 高齢者住宅財団理事長

三方よしモデル

売り手よし、買い手よし、世間よし



利用者よし、事業者よし、社会よし



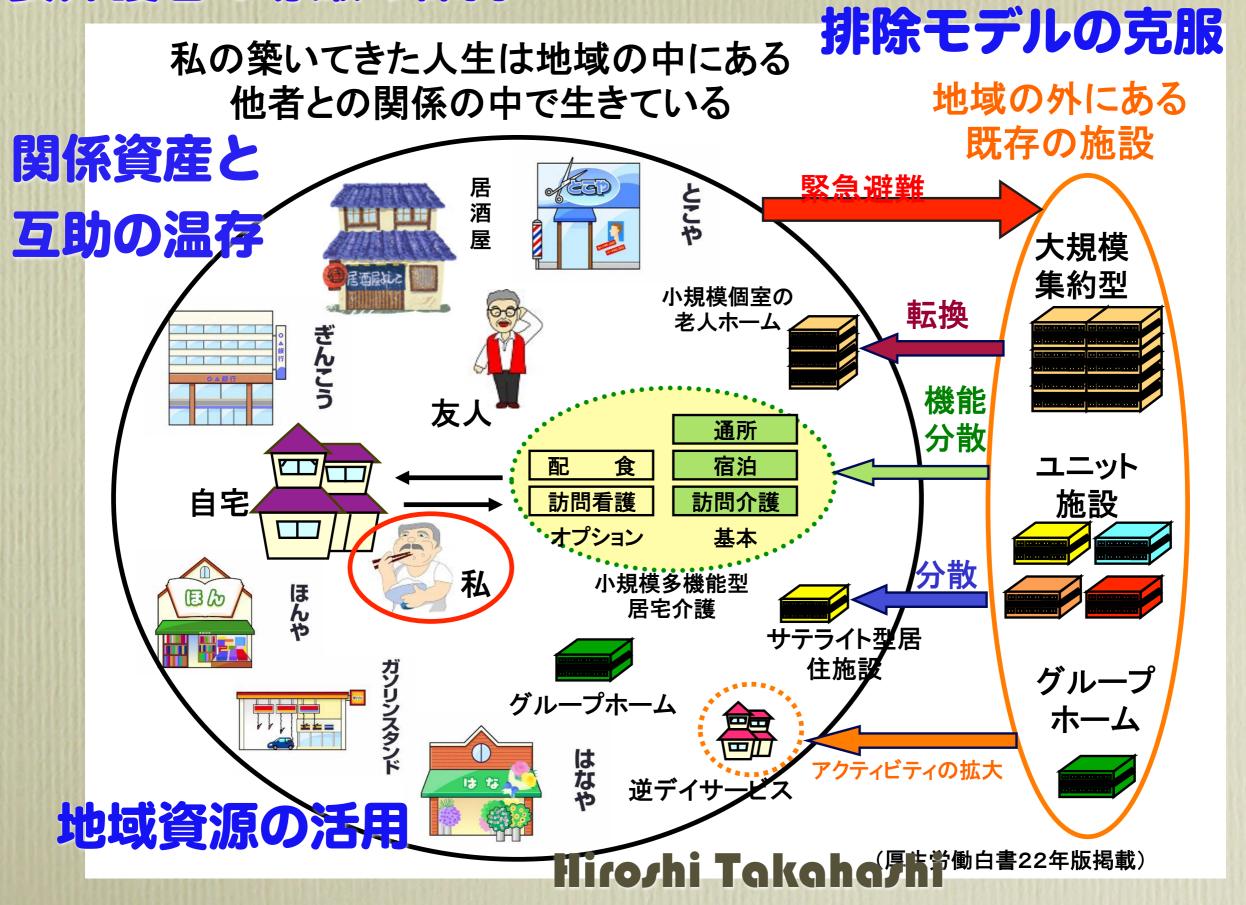
ステイクホルダーモデル

利用者		事業者 地域社会 他事業者			社会
本人	家族	経営者	従事者	地域住民	行政
良し/悪し	良し/悪し	良し/悪し	良し/悪し	良し/悪し	良し/悪し

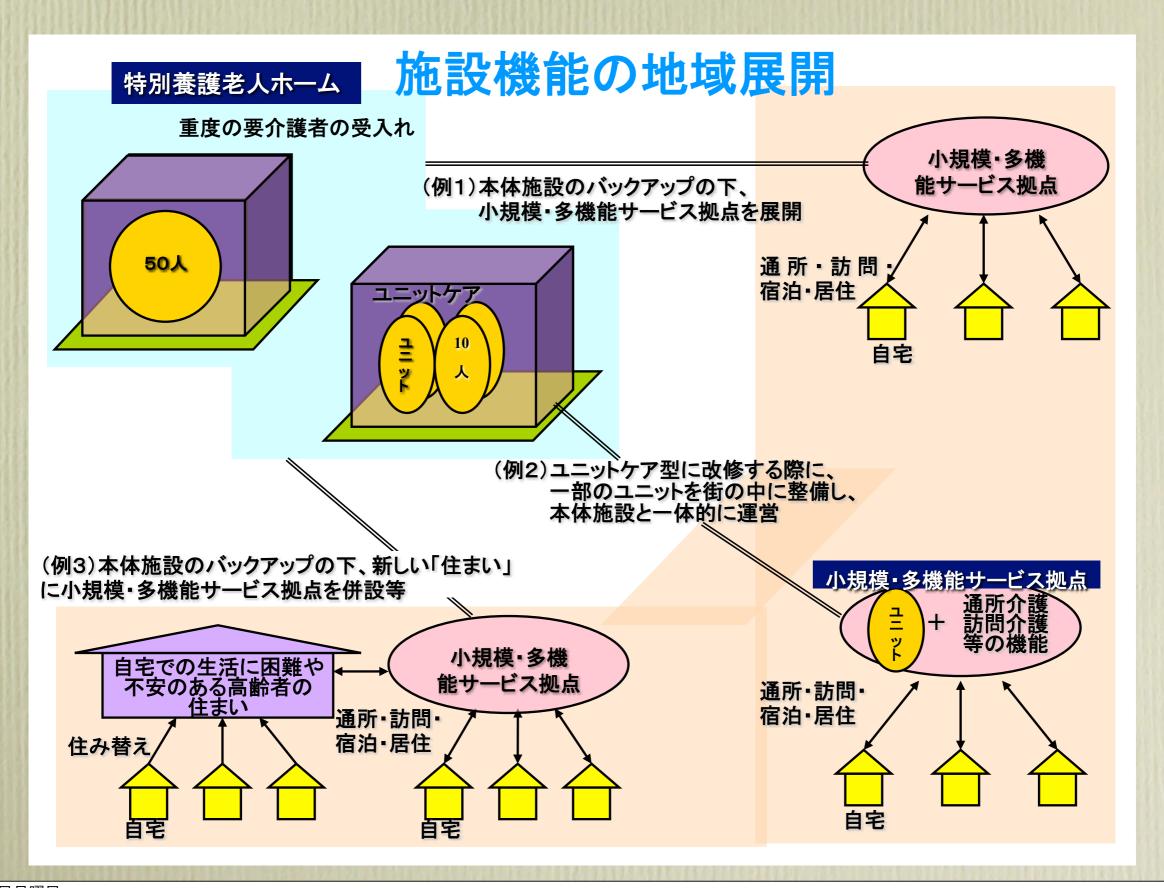
こぶし園モデルとは何か

要介護者の尊厳の保持

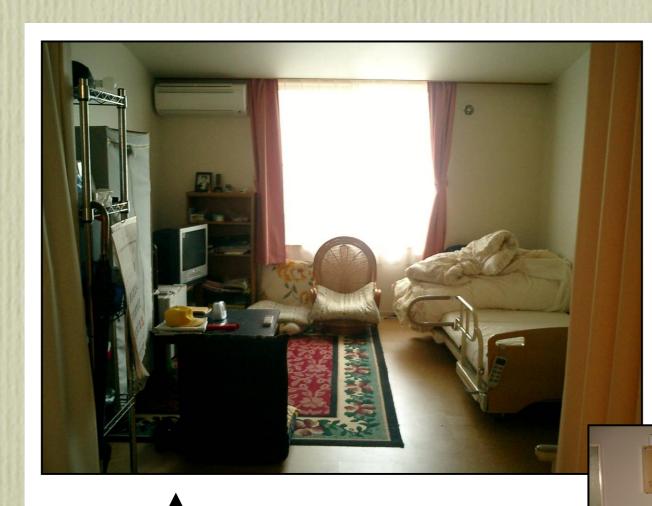
コンセプト



手法



利用者と家族への効果 尊厳の保持



小規模多機能型の 居宅選択とサテライ ト型居住施設の地 域復帰・住環境向上 の目的は

馴染みの暮らしを続ける(復帰する)という意味で同じ仕組み

世界 在 平均要介護度4.3の 生活環境が変化

いままで

地域展開の現況



その事業体への効果

- ・日常生活圏単位への多事業所展開
 - ・多事業所による多管理職体制 キャリア形成に効果 離職率低い
- ・ケアと居住機能の分離とその効果

地域資源の活用

- ・固定経費としての資本投資の極小化
- ・ニーズに対応したサービス展開は事業拡大を容易に するとともに人件費に収入を配分可能

市役所初任給に匹敵する賃金

地域社会へ

地域に溶け込み地域を

施設と住まいの連続化



キッズルームと居酒屋の意味

大都市部でのこぶし園モデル

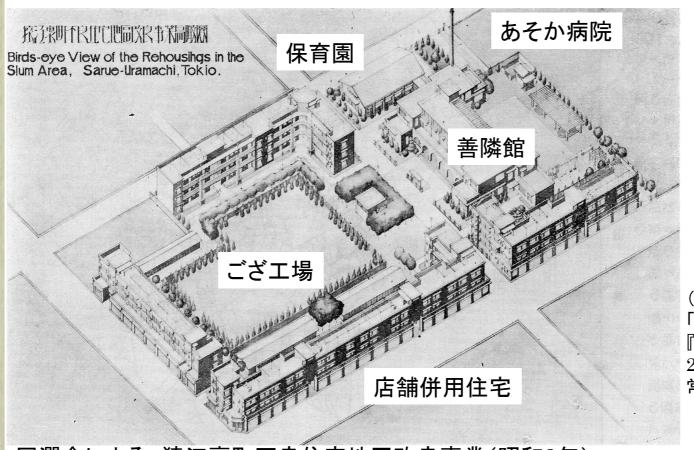
- ・措置思考の残存 行政の縛りと民間の自由創意を制約 する 行政の下請けとしての民間?
- ・ネットワーク型整備の困難、一点豪華詰め込み主義
- ・みえない地域社会
- 人材確保問題
- ・東京都での地域密着型サービス展開の思わぬ阻害要因

社会事業に学ぶ

包括的支援の原型

医職住の一体的提供

近代(戦前期)の仮設住宅・復興住宅の経験<昭和>



中心に善隣館

(中村寛 「住宅経営」 『高等建築学第 25巻』 常盤書房1934)

同潤会による、猿江裏町不良住宅地区改良事業(昭和2年)

善隣館(医務室、講堂、図書室等)

保育園

隣地に、あそか病院

中庭に、ござ工場(授産施設、ござ・畳の生産)

住まいと支援が一体化

参考 猿江裏町不良住宅改良事業報告 Hiroshi Takahashi